

第 2 回 館 山 市 議 会 定 例 会 議 録

(第 4 号)

1 平成6年6月24日（金曜日）午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 26名

1 番 秋山 光章	2 番 増田 基彦
3 番 島田 保	4 番 斉藤 実
5 番 宮沢 治海	6 番 植木 馨
7 番 鈴木 順子	8 番 永井 龍平
9 番 脇田 安保	10 番 庄司二三男
11 番 山崎 雅己	12 番 岩村 勝弘
13 番 榎本 春光	14 番 小宮 利夫
15 番 山中金治郎	16 番 鈴木 勝美
17 番 鈴木 忠夫	18 番 日下 君敏
19 番 川名 正二	20 番 生稲 陞
21 番 神田 守隆	22 番 福原 勤
23 番 石井 昌治	26 番 辻田 実
27 番 横溝 功	28 番 飯田 義男

1 欠席議員 なし

1 出席説明員

市長 庄司 厚
収入役 川上 義雄
総務部長 神子 純一
経済部長 小沼 晃
水道課長 谷貝 実
教育委員会 高橋 博夫
教育委員会 平嶋 倫治
選挙管理委員会 田村 哲也
監事 務局 査長

助役 小幡 清之
市長公室長 永野 修
民生部長 渡辺 富雄
建設部長 三平 孝司
教育委員会 滝口 喜雄
選挙管理委員会 加藤 利
監査委員 山田 教和
農業委員会 斉藤 明

農 業 委 員 会
事 務 局 長 佐久間 宏

1 出席事務局職員

事 務 局 長 兵藤 恭一	事 務 局 長 補 佐 鈴木 哲
書 記 四ノ宮 朗	書 記 安田 仁一
書 記 小山 真	書 記 松浮 郁夏

1 議事日程（第4号）

平成6年6月24日午前10時開議

- | | | |
|------|---|--------------------------------------|
| 日程第1 | { | 議案第28号 館山市国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について |
| | | 議案第29号 工事委託協定の締結について |
| 日程第2 | | 議案第30号 平成6年度館山市国民健康保険特別会計補正予算（第1号） |
| 日程第3 | | 継続審査について |
| 日程第4 | | 議員定数調査に関する件 |
| 日程第5 | | 常任委員会委員及び議会運営委員会委員の選任について |
| 日程第6 | | 常任委員会所管事務の閉会中継続調査について |

開 議 午前10時10分

◎議長（辻田 実君） 本日の出席議員数26名、これより第2回市議会定例会第4日目の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

議案の上程

◎議長（辻田 実君） 日程第1、議案第28号及び議案第29号の各議案を一括して議題といたします。

総務委員会委員長報告

◎議長（辻田 実君） ただいま議題となりました各議案は、6月21日の本

会議において総務委員会に付託されたものであります。

よって、これより総務委員会における審査の経過並びに結果につき、委員長の報告を求めます。

総務委員会委員長植木 馨さん。御登壇願います。

(総務委員会委員長植木 馨君登壇)

◎総務委員会委員長(植木 馨君) おはようございます。ただいま議題となりました議案第28号及び議案第29号に係る総務委員会における審査の経過並びに結果について御報告申し上げます。

去る6月21日の本会議におきまして本委員会に付託されました各議案につきまして、22日委員会を招集し、慎重に審査を行いました。

以下、その質疑応答等、主なものについて申し上げます。

議案第29号工事委託協定の締結についてであります。委員から工事に伴う被害が出た場合の補償はどうなるのかとの質疑に対しまして、その原因が下水道公社にある場合は下水道公社において、それ以外の天災等公社に責任のないものは市においてその責任を負い、不可抗力等原因不明のものについては市並びに公社で協議しながら問題を解決していきたい。また、事前に近隣の家屋調査を行い、工事には万全を期すつもりであるとの説明がありました。

さらに、家屋調査の内容について説明を求めたところ、工事の内容は泥水推進工法を採用する。これは地表に影響を及ぼさないように管を入れていく工法であるが、この管を押し込むために設置する5カ所の立て坑周辺における約15棟の家屋について調査を実施する予定であるとの説明がありました。

採決の結果、付託を受けました議案第28号及び議案第29号については全員一致をもって原案どおり可決すべきものと決しました。

以上御報告申し上げまして、総務委員会委員長報告を終わります。

◎議長(辻田 実君) 以上で委員長の報告を終わります。

質 疑 応 答

◎議長(辻田 実君) ただいまの委員長報告について御質疑はございませ

んか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

討 論

◎議長（辻田 実君） これより討論を行います。

通告はございませんでした。討論はありませんか。——討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（辻田 実君） これより採決いたします。

採決は一括して行います。

各議案についての委員長報告は原案可決であります。

各議案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（辻田 実君） 異議なしと認めます。よって、各議案はいずれも原案どおり可決されました。

議案の上程

◎議長（辻田 実君） 日程第2、議案第30号平成6年度館山市国民健康保険特別会計補正予算（第1号）を議題といたします。

文教民生委員会委員長報告

◎議長（辻田 実君） ただいま議題となりました議案は、6月21日の本会議において文教民生委員会に付託されたものでございます。

よって、これより文教民生委員会における審査の経過並びに結果につき、委員長の報告を求めます。

文教民生委員会委員長島田 保さん。御登壇願います。

（文教民生委員会委員長島田 保君登壇）

◎文教民生委員会委員長（島田 保君） ただいま議題となりました議案第30号平成6年度館山市国民健康保険特別会計補正予算（第1号）に係る文教

民生委員会における審査の経過並びに結果について御報告申し上げます。

去る6月21日の本会議におきまして本委員会に付託されました本議案につきまして、22日委員会を招集し、慎重に審査を行いました。

以下、その質疑応答等、主なものについて申し上げます。

まず、繰越金について説明を求めたところ、前年度剰余金の出た主な理由として、歳出において、インフルエンザ等の流行がなく、医療費全体の伸びが少なかったこと、また歳入における財政調整交付金のうちの特別調整交付金の増などによるものであるとの説明がありました。

次に、老人保健事業費拠出金の内容について説明を求めたところ、平成6年10月から制度改正により新設予定のものであり、定められた計算式により算出した額である。なお、平成6年2月28日付、県を通じて市町村に送付された通知に基づく補正であるとの説明がありました。

採決の結果、付託を受けました議案第30号については全員一致をもって原案どおり可決すべきものと決しました。

以上御報告申し上げます、文教民生委員会委員長報告を終わります。

◎議長（辻田 実君） 以上で委員長の報告を終わります。

質 疑 応 答

◎議長（辻田 実君） ただいまの委員長報告について御質疑ありませんか。

— 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

討 論

◎議長（辻田 実君） これより討論を行います。

通告はありませんでした。討論はありませんか。— 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（辻田 実君） これより採決いたします。

本案についての委員長の報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎議長(辻田 実君) 御異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり可決されました。

継続審査について

◎議長(辻田 実君) 日程第3、請願の継続審査についてお諮りいたします。

総務委員会に付託中の請願第18号消費税の税率引き上げ反対の意見書を求める請願書及び議会運営委員会に付託中の請願第19号館山市議会議員定数削減に関する請願書について、各委員長から、会議規則第104条の規定により、閉会中の継続審査とされたいとの申し出がありました。

各請願を委員長からの申し出のとおり閉会中の継続審査とすることに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎議長(辻田 実君) 御異議なしと認めます。よって、各請願は閉会中の継続審査とすることに決しました。

議長の報告

◎議長(辻田 実君) なお、この際申し上げます。

各常任委員会における陳情審査結果が報告されております。お手元に配付の印刷書により御了承を願います。

議員定数調査に関する件

◎議長(辻田 実君) 日程第4、議員定数調査に関する件を議題といたします。

質疑応答

◎議長(辻田 実君) 本件について、去る15日の本会議において議員定数

調査特別委員会の委員長及び少数意見者の報告が行われております。

よって、これより本報告に対する質疑を行います。御質疑ありませんか。

— 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

（「動議」と呼ぶ者あり）

◎議長（辻田 実君） 21番。

◎21番（神田守隆君） 本案件、この議員定数調査に関する件でありますけれども、ただいま御報告があった中で、議会運営委員会において市議会議員の定数削減にかかわる請願が継続審査になりました。こういうことでありますから、当然この議員定数調査に関する件については、継続審査をしている議運という、そういう議運の審議を当然尊重するべきであります。したがって、この案件についての採決については行わずに、この問題については再び議会運営委員会に再付託をすべきであるというふうに考えます。

以上の点で、この議案の扱いについてお願いしたいと思うわけであります。

◎議長（辻田 実君） ただいまの発言は再付託の動議ということで扱ってよろしゅうございますか。

◎21番（神田守隆君） はい。

◎議長（辻田 実君） ただいま神田議員から再付託の動議が提出されましたけれども、この動議に賛成の方は御起立を願います。

（賛成者起立）

◎議長（辻田 実君） ただいま神田守隆さんから再付託の動議が提出され、所定の賛成者がおりますので、動議は成立いたしました。

よって、本動議を直ちに議題といたします。

お諮りいたします。本動議のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

◎議長（辻田 実君） 起立少数であります。よって、再付託の動議は否決されました。

討 論

◎議長（辻田 実君） これより討論を行います。

討論ございませんか。 — 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（辻田 実君） これより採決いたします。

（「議長」と呼ぶ者あり）

◎議長（辻田 実君） 21番。

◎21番（神田守隆君） 議員定数調査特別委員会のこの内容は極めて重要な問題であります。したがって、この問題の採決については極めて慎重を期さなければならないと考えますので、無記名投票による採決を望みます。

◎議長（辻田 実君） ただいまの発議は動議として取り扱ってよろしいですね。

◎21番（神田守隆君） この問題について所定の賛成者があるかどうか。4名あればこの問題については投票にせざるを得ないということになりますので、4名の方の賛成を得たいと思いますので、暫時休憩を願いたいと思います。

◎議長（辻田 実君） 21番議員に申し伝えます。要求の場合には4人以上をもって要求をいただきたいと思います。

暫時休憩いたします。

午前10時26分 休憩

午前10時32分 再開

◎議長（辻田 実君） 休憩前に引き続きまして会議を再開いたします。

ただいま神田守隆さんからこの採決については無記名投票によられたいとの要求が提出されました。本要求には会議規則第71条の規定により4人以上の要求者が必要であります。他に要求する議員はありますか。要求に対して賛成の方は起立を願います。

（要求者起立）

◎議長（辻田 実君） 要求者4人以上であり、本要求は成立いたしました。

よって、本件については無記名投票をもって採決することに決定いたしました。

これより採決いたします。

採決は無記名投票により行います。

議場の閉鎖を命じます。

(議場閉鎖)

◎議長(辻田 実君) ただいまの出席議員数は25人であります。

投票用紙を配付いたさせます。

(投票用紙配付)

◎議長(辻田 実君) 投票用紙の配付漏れはありませんか。 — 配付漏れなしと認めます。

投票箱を改めさせます。

(投票箱点検)

◎議長(辻田 実君) 異状なしと認めます。

念のため申し上げます。議員定数調査特別委員会委員長報告を了承することに賛成の諸君は賛成と、反対の諸君は反対と記載の上、点呼に応じて順次投票願います。

なお、重ねて申し上げます。投票中、賛否を表明しない投票及び賛否の明らかでない投票は、会議規則第73条第2項の規定により反対とみなします。

点呼を命じます。

(書記氏名点呼、投票)

◎議長(辻田 実君) 投票漏れはありませんか。 — 投票漏れなしと認めます。

投票を終了いたします。

議場の閉鎖を解きます。

(議場開鎖)

◎議長(辻田 実君) 開票を行います。

会議規則第31条第2項の規定により、立会人に斉藤 実さん及び鈴木忠夫さんを指名いたします。よって、両名の立ち会いを願います。

(立会人登壇、開票)

◎議長(辻田 実君) 投票の結果を報告いたします。

投票総数25票、これは先ほどの出席議員数に符合いたしております。

そのうち、賛成16票、反対9票、以上のとおり賛成が多数であります。よって、委員長報告を了承することに決しました。

暫時休憩をいたします。

午前10時45分 休憩

午前11時22分 再開

◎議長(辻田 実君) 休憩前に引き続き会議を再開いたします。

日程の追加

◎議長(辻田 実君) ただいま発議案第5号館山市議会議員定数条例の一部を改正する条例の制定についてが提出されました。

お諮りいたします。本案を日程に追加し、直ちに議題といたしたいと思ひます。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」「異議あり」と呼ぶ者あり)

◎議長(辻田 実君) 御異議がありますので、起立により採決いたします。

本案を日程に追加し、議題とすることに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

◎議長(辻田 実君) 起立多数であります。よって、本案を日程に追加し、議題とすることに決しました。

議案の上程

◎議長(辻田 実君) 発議案第5号館山市議会議員定数条例の一部を改正する条例の制定についてを議題といたします。

議案の配付

◎議長(辻田 実君) 議案を配付いたさせます。

(議案配付)

◎議長（辻田 実君） 議案の配付漏れはありませんか。 — 配付漏れなしと認めます。

議案の朗読を願います。

（書記朗読）

◎議長（辻田 実君） 朗読は終わりました。

議案の内容説明

◎議長（辻田 実君） 提出者の説明を求めます。

28番飯田義男さん。御登壇願います。

（28番議員飯田義男君登壇）

◎28番（飯田義男君） 発議案第5号館山市議会議員定数条例の一部を改正する条例の制定について、提出者の代表として御説明申し上げます。

この問題については、さきに定数減を決定させていただきました。それ以前に、提出した同志の人びとといろいろと定数問題について話し合いを進めてまいりました。館山商工会議所、町内会連合会等、市民の世論をも考慮いたしまして、いろいろな意見を取り交わしました。今や日本は不況の時代に入り、地方自治体においてもリストラを断行しなければいけないし、国においても今や消費税の問題を通してスリムな国政を検討しておるようでございます。それに準拠して、館山市もこの際世論に合わせて、我々もスリムな市政によって活力ある館山市議会をこれからつくっていかねりゃならぬという同志の御意見もありました。そういうことで、人員についてはいろいろと検討いたしました。2名という方、あるいは4名という方、あるいは5名という方も一部ございました。しかしながら、それらの意見を集約して、提出者全員の了解を得たのが3名でございます。その点、ひとつ皆さんの御賢察を願いたいと思います。

以上で私の提案の説明を終わりますけれども、どうか満場の皆様の御賛同をお願い申し上げまして、提出者の説明を終わります。

◎議長（辻田 実君） 説明は終わりました。

質 疑 応 答

◎議長（辻田 実君） これより質疑を行います。

御質疑はありませんか。

21番。

◎21番（神田守隆君） まず、この議案が今回急遽提案されて、私は本当にこういうことが議会の中であっていいのかということで、非常に憤りを感じておる点を申し述べたいと思います。

先ほどの御説明によりますと、2人だ、3人だ、4人だ、5人だとさまざまの意見があった中で3人になった、こういう御説明でありましたけれども、そうすると3人というのは野合した結果にすぎない。これ自身に何らの合理的な根拠はない。飯田先生は特別委員会の委員長ということで、全国各地の定数の状況についての調査を行っております。私も一緒に行いました。こうした中で、3人減員して25という数はこういうものとの関連は全くない、こういう理解をせざるを得ないんですけれども、そういうことなのかどうか。

それから、現在議会並びに議員に対して市民から大変な不信、これが投げつけられているという事実はあります。今度の提案者はその事実についてどのように考えられておるのかお聞かせいただきたいと思います。どういうことかといいますと、議会は活発な論議を行う場である。当然のことです。今回提案された方々は果たして前回選挙で選ばれて以降活発な論議を市民に責任を負ってやってきたかどうか、自らの胸に手を当てていただきたいんです。その辺、16人の方々すべてにお尋ねいたしますが、飯田先生は――3年とわずかですか、ちょうど13回の定例議会がありました。この13回の定例議会の中で一般質問を皆さんどのぐらいやってきたのか、これが問われるんです。飯田先生は1回――私の調査です。1回であったというふうに私は思っておりますけれども、数が違うかどうか。小宮利夫先生は1回であった。山崎雅己先生は1回、島田 保さんは3回、増田基彦さんは3回、生稲先生は1回、岩村勝弘先生が2回、山中金治郎先生が3回、横溝先生がゼロ回、秋山先生が4回、石井昌治先生が1回、榎本先生がゼロ回、宮沢先生が2回、庄司先生がゼロ回、斉藤先生が4回、川名先生が1回、私が今読み上げた数

字に間違いがあってはいけないと思いますから、それぞれ皆さんの胸に手に当てて、この数に間違いがあるかどうか、1人1人全部お答えください。そして、この13回の議会における質問において、果たして自分の胸に手を当てて、市民の負託に十分応えたと自信を持って言えるかどうか、それについても御返事をいただきたいと思います。この問題は人数の問題ではないんです。この問題をちゃんとしなければ、市民の信頼の回復はできないというふうに思います。

第3点目に、石井昌治先生にお尋ねをいたします。石井昌治先生は、平成3年の6月、副議長のお立場にあって、酒酔いで当て逃げ事件を起こしたと新聞で報道がされました。そして、副議長の職を辞せられた。しかしながら、先日議会運営委員会の中でこの問題が話題になった際、辻田議長さんから刑事上の処分並びに行政上の処分についてはないというふうに伺っていると重大な発言がありました。酒酔いで当て逃げ事件を起こしますと、どう考えても免許取り消し1年であります。こういうことがあったのでは——それなりの処分を受けて議員としてやっていくというならば、それはそれで結構であります。しかし、バッジを持っているから、バッジをつけているからそういう処分を受けないで済むんだとすれば、これは議員に対する、議会に対する不信を市民の中に起こしかねない要素を持っている問題であります。この際、石井昌治先生には自らの問題について釈明を求めたいと思います。何も行政上の処分、免許に関する処分がないと辻田議長さんから伺ったことは事実かどうか、こういうことであります。

以上、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（辻田 実君） 暫時休憩をいたします。

午前11時35分 休憩

午前11時41分 再開

◎議長（辻田 実君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

28番飯田さん。

◎28番（飯田義男君） ただいまの神田議員の質問にお答えをいたしたいと思います。

1人1人ということもございましたけれども、私が提出者の代表でございますので、先ほど提案理由を申し上げたとおりでありまして、1人1人の意見は私が集約して申し上げたわけでございますので、御了解願いたいと思います。

なお、石井昌治議員の個人的な問題については、この発議案と直接関係のないこととございまして、後ほどまた神田議員がどうなさるのは、これは自由でございますけれども、この場ではひとつこれに対する糾弾はやめていただきたいと思います。

以上でございます。

(何事か呼ぶ者あり)

◎議長(辻田 実君) 28番。

◎28番(飯田義男君) 直ちに採決をお願いいたします。

◎議長(辻田 実君) 21番神田さん。

◎21番(神田守隆君) 質疑中に質疑を打ち切る、とんでもない話です。まだ私の質疑続いているじゃないですか。議長、ちゃんと計らってください。まだ1回しかしてないんだ。

◎議長(辻田 実君) 議長は、ただいまの神田議員の質疑に対して飯田議員の方から答弁がございましたので、それは答弁というふうに認めておりますので、再度それに対する質問がありましたら質問していただきたい。答弁漏れ云々は飯田議員の方の問題かと思っておりますので、そういうことで扱います。

(何事か呼ぶ者あり)

◎議長(辻田 実君) 神田議員に注意します。質疑をしてください、質疑中でございますので。

(何事か呼ぶ者あり)

◎議長(辻田 実君) 28番。

◎28番(飯田義男君) 私は提出者全員の委託を受けて代表答弁をいたしておりますので、御了解を願います。

(何事か呼ぶ者あり)

◎議長(辻田 実君) 答弁は答弁でございますので、その点について再質

問がございましたらお願いいたしたいと思います。

21番。

◎21番（神田守隆君） 飯田先生、こういう議会の運営の仕方というのは私15年間議員をやっていて初めてです。議長は横暴をやるし、多数でどんどん引っ張っていっちゃう、こんなやり方は私も初めてです。議会というのはきちんと論議をする場所ですから、そういう点を踏まえてほしいなと思います。

そこで、先ほどの中で私が皆さんに、3年余の中で議員としての活動が市民の負託に応える、こういうことでどうだったのかというお尋ねをしたわけです。確かにその問題についてはいろんな見方があります。しかし、質問がほとんどないというのも果たして議員としてどうなのかと市民から問われる問題なんです。だから私はあえてこの数を言ったわけです。議会の活性化を図っていく、こういうことを考えた場合には、議会でとんどん質問が出る、活発な論議が行われる、これが基本でなければならぬんであって、定数をいじってどうこうという問題とは筋が本来違うんじゃないか、私はその点を言っているわけで、そういう点から見て、皆さんは、提案者の方々はどういうふうに考えているのかとお尋ねしたわけです。

そこで、私が言った数 — 私は朝早く起きて一生懸命数えたんです、これ。大変なんです、結構。こんなことになるのかなと思っていたから、3年分の議事録をみんな見ました。しかし、私もかなり過労ぎみですから、目こぼしもあるし、いや、そんなはずはないという議員さんもおるでしょうから、だからどうなんですか、間違いないですかと皆さんに聞いて、そして間違いのないなら間違いないと答えてくれればいいじゃないですか。

石井昌治さんの問題は、議運の中で、全員協議会で釈明がある、こういう話でありましたけれども、なかなか全協の話が出てこない。議長さんは何を考えているのかわかりませんが、改めて議運の決定どおり、全員協議会の中できちんとこの問題についての決着を図るということを議長において、また議運の委員長においてその取り計らいをしていただくよう求めておきます。

◎議長（辻田 実君） 28番飯田さん。

◎28番（飯田義男君） 議員の議会活動について、神田議員は単に議場における発言のみを議会活動として考えているようでございます。もちろん、議場において自分の意見を申し上げ、あるいは自分の市政に対する抱負経緯を陳述することも当然でありますけれども、そのほかに常任委員会、その他各種の委員会がございます。そこにおける発言も、これまた議会活動の一環であります。なお、自分の地元へ帰って、いろいろな市民との接触、あるいは各種団体の意見を聴取する等、あらゆる問題がやはり議員活動の1つの仕事であろうと考えております。議会で当然通告質問するのもその大きな任務の1つでありますし、その点についていろいろと神田議員の御指摘もありますけれども、25名という少数でありますから、今までに倍して我々は議会活動に専念をし、活性化していく義務があると思いますので、その点御了解を願いたいと思います。

◎議長（辻田 実君） 21番神田さん。

◎21番（神田守隆君） 最後までお認めにならないんですね、この数の問題はそうだと。確かに理屈はそうなんです。そのとおりなんです。議員の活動というのは議会における発言とは限らないです。しかし、それが重要な要素であることも間違いのないから、そのことをみんな自覚しなきゃいけない。果たしてこの間自覚してやってきたのか、そのことを言っているわけで、そういう点からこの数というのは非常に具体的なんです。これはもう隠しようがない。私の言った数字は間違いのない、こういうことで確認をさせていただきますけれども、御異議ございませんか、提出者の皆さん。

◎議長（辻田 実君） 他に御質疑ございませんか。

7番鈴木さん。

◎7番（鈴木順子君） 少し重複する部分もあるんですけども、私はこの発議案を今この議場で見まして、本当に驚いたというふうなことをまず冒頭に申し上げておきます。というのは、ここに提案されている、提出者になられている議員の方、16名の方、これは先ほど特別委員会の委員長報告に賛成した議員ということを――数は偶然合うわけですが、裏にはどういうことが

あるかわかりませんが、この人たちはこれを出されたことについて、私は議会人として議会という場をどのようにお考えなのか聞いてみたいというふうに思います。非常に傲慢なやり方。こういう数の議論を今までされたことがありますか。皆さんで集まってこの数を ― ここに28を25と書いてありますが、話し合ったことがありますでしょうか。よく国会で密室政治であるとかいうことが言われますけれども、まさにこれは館山市議会における密室政治の何物でもない。非常に傲慢だというふうに思います。このことについてどうお考えなのか。先ほど神田議員の質疑に対して飯田議員が代表でお答えしていますが、私は1人1人の議員としての立場でこの発議案を提出されている方々にきちっとしたお考えをこの場で明らかにしてもらいたい。明らかにする義務があるというふうに思います。市民に対しての義務があるというふうに思いますので、この辺ははっきり申し述べておきます。

それから、ここに28を25というふうに数が書いてありますが、根拠は何ですか。25となった根拠をぜひ教えていただきたい。

それから、私はこの問題が起きましてからずっと私なりに市民の中にいろいろな意見を ― 私なりに調査に出向きました。そういった中で市民の方から出された意見というのは、確かに議員の数が多いんじゃないかという意見もあったことは事実です。その内容をよくよく聞いてみますと、なぜそういうふうに思うのかというふうに聞いてみますと、議員としての資質が問われているというふうに思いました。というのは、いろんな事故、事件を起こしても、議会人としてバッジをつけてやっていらっしゃるという方もいます。これはいろんな考えがありますから、その人たちはどういうふうなお考えなのかちょっとわかりませんが、私が聞いた限りにおいては、事故を起こしてもそのまま議員でいられるということの不思議さ、またバッジをつけたまま夜の飲食店街で飲酒をしている姿、このだらしない姿、こういうものを市民は見ています。だから私は全員協議会の席でも以前に申し上げました。議員は議員としての立場をよく自覚して行動しなきゃいけないということをずっと言い続けている。このことについてどういうふうにお考えなのか、私はぜひこの提出者の方々に、1人1人に答弁を求めます。よろしくお願いし

ます。

◎議長（辻田 実君） 28番飯田さん。

◎28番（飯田義男君） ただいまの鈴木議員の御質問でございますけれども、私はあくまでも提出者全員の意思を代表して、一切を任されておりますので、この際1人1人発言をなさっても同じ発言になりますので、その点は御了解を願いたいと思います。

なお、この議員減数3名はまだ時期尚早じゃないかという御意見については、私は賛成者の意見を1人1人聴取いたしました。反対する人の意見を聞いても、これは反対ですからどうにもなりませんので、賛成者の意見を聞いて集約した25名という改定の数字でございます。ですから、反対される方はあくまでも反対でございましょう。それは自分たちの首切りでありますから、当然そういうことで私は結構だと思いますけれども、やはり大所高所からこの25名という削減については判断をして決定をした非常に苦しい心の中を御了察を願いたいと思います。

以上です。

（何事か呼ぶ者あり）

◎28番（飯田義男君） ほかの人たちの答弁はございませんから、速やかにここで諮っていただきたいと思います。

◎議長（辻田 実君） 質疑を継続してください。

（何事か呼ぶ者あり）

◎議長（辻田 実君） 再質問でやってください。

7番鈴木さん。

◎7番（鈴木順子君） 私は本当に――飯田先生が先ほどから――飯田議員さんが提出者ですから、代表者ということでお話をしておりますが、飯田議員さんに私は1つお聞きをしたいんですが、私がこの議会に入りましたのは3年ちょっと前です。そういった中で、私は県下の党の議員から館山の市議会是非常に民主的であるというようなことを聞いておりました。というのは、先輩議員が新人を育てていくんだというようなことでは非常に民主的な議会であるというようなことを聞いておりました。それで、私も当初は随分先輩

方にいろんなことを教わりながら、不十分ですが、ここまでやってきましたが、そういうことからしますと、今回のこのやり方について、賛成の議員だけにお話を申し上げて了解をもらったということではありますが、議会の民主性ということから考えますと、反対者には意見を求めない。非常に傲慢じゃないですか。非常におかしい。このことだけでなく、ほかのこともすべてこういうふうにおやりになるのか、これはぜひお聞きをしたいというふうに思います。

それから、先ほど私は議員としての資質が問われているんですよ、市民からはそういう議員だったら要らないんだというふうな意見が一部にあるんだというふうなことを言っています。改めてお聞きをしますが、この定数削減の問題が出ましてから、飯田先生は特別委員会の中で報告されていますから、私はお聞きをしています、何人かの方にお聞きをしたというようなことが報告されております。私が提出者の方々みなにお聞きをしたいというのは、この人たち、本当に1人1人が市民の真意を独自に聞いてきましたかということなんです。それは全部の市民になかなか聞くチャンスはありません。でも、少なくとも自分の回りには支持者の方がいらっしゃる。そういった方々に何人ぐらい聞いてきたんですか。その真意は何だったんですかということをお聞きをしたい。それにはやっぱり飯田先生、飯田議員さん一人の答弁ということでは納得しかねますので、1人1人お聞きをしたいというふうに思います。

◎議長（辻田 実君） 28番。

◎28番（飯田義男君） ただいまの鈴木議員の質問にお答えすることになるわけでございますけれども、この館山の議会は民主的に今まで――少数の革新の議員さんも入れていろいろと相談をし、無理押しをせずにやってまいりました。もちろん市政のことに対して、あるいは市の将来に対して、大きな問題に対しては、私は今までそうしてまいりましたし、今後もすべきだと思います。ところが、事議員だけの定数の問題でございまして、これは世論その他を考えて、反対者はあくまでも反対をしていらっしゃるけれども、しかし賛成者の意見をまとめなければいけないという大所高所からの判断でこ

ういう措置をとったわけでございます。したがって、市政のいろいろな問題について、今まで強行したことも、将来も強行する考え方はいささかもない。民主的な運営をしていきたいと考えております。

以上でございます。

(何事か呼ぶ者あり)

◎議長(辻田 実君) 代表して答弁がありましたので、御了承願いたいと思います。

(何事か呼ぶ者あり)

◎28番(飯田義男君) 委託をされておりますので、1人1人の発言はここではいたしませんので、その点は御了解を願いたいと思います。

◎議長(辻田 実君) 質疑を続行願います。

7番鈴木さん。

◎7番(鈴木順子君) 今私がお願いして、ここで御発言にならない方々、私は本当に——飯田さんが代表者であるということとずっと御答弁していらっしゃいますが、全くこれじゃわけわかんないんです。何のために提出者になられたのか。提出者になるということは大変なことなんです、本当に。笑ってそのとおりですと言っている場合じゃない。それだったらお答え願いたい。この議員定数の削減が特別委員会の委員長報告賛成ということになった。ついさっきです。それが1時間たたない間に文書として、発議案として出てくる。こういうやり方に対して本当に皆さん疑問を持たないんですかと言っているんです。議会としてこんなことでいいんですかと言っているんです。市民の皆さんに議会で十分審議しましたと言えますか。言えないでしょう。このことについてどういうふうにお考えなのか。1人1人じゃなくても、自分が発言したいという方がいらっしゃったらぜひ発言してほしいというふうに思います。

それと、私が先ほど申し上げましたように、議員の資質が問われているということ。まず申し上げておきますが、私なりのやり方でいろんなことをこの問題について市民に聞いたところによりますと、あくまでも——やっぱり国会なんかでもそうです。刑事罰を受けても議員としてやっている。県会で

もそう。近隣町村でもそう。そういった議員がいるということについて非常に市民は不満に思っている、住民は不満に思っているということがまずあるということ。それと、その中で — 請願の方で出されて、これは継続になっていますけれども、経費の削減というような話はなかったというようなことを私はここで言っておきたいと思います。

改めてここで — もう私の質問これで最後ですから、ぜひお聞きをしておきたいんですが、本当に市民に対して訴えることがあったらこの場で訴えなさいということなんです。訴えてください。私の質問これで最後です。ぜひここで訴えてください。

以上です。

(何事か呼ぶ者あり)

◎議長(辻田 実君) 質疑の趣旨が聞き取れないということでございますから、要旨だけをはっきりと申し述べていただきたいと思います。質疑の要旨が聞き取れないということでございますので、要旨を簡明に発言を願います。

◎7番(鈴木順子君) 聞こえないということですので — また声を大きくして言うのも疲れるんです、本当に。改めて言わせていただきますが、さっきとちょっと違うことを言っちゃうかもしれません。いいですか。

◎議長(辻田 実君) 要旨のみを簡明にお願いいたします。

◎7番(鈴木順子君) 先ほど特別委員会の委員長報告に賛成ということで決まったばかりですということが1つ。そういうことがさっきあって、1時間もしないうちにこういうものが出てくるということについておかしくないですかということです。先ほど強行した — 今までもこの後も強行するお考えはないということですが、これは強行以外の何物でもないということです。

それと、議員の定数削減ということですが、市民は議員の資質をとらえているんですよということ。そういった声をぜひこの場 — もう最後ですから、皆さん方、市民に対して訴えることがあるんなら、ここで訴えるのも最後ですということを言っています。

また再度と言われても、もう一つあったように思うんですが、それで結構

です。よろしくお願いします。

◎議長（辻田 実君） 28番飯田さん。

◎28番（飯田義男君） この定数問題については、もう1年前からこの委員会が発足して、議員1人1人においても十分この問題については検討し、世論を聞き、自分の腹づもりをしておったと思います。たとえこれが2年かかろうと3年かかろうと、決定的ないわゆる結論というのは私は反対する人たちには出ないんじゃないか。あくまでも反対ということでございますから出ないと思いますし、やはりこの問題は議員独自の問題でございますから、やはり今まで考えておったことを即断をして、直ちに決定することしか方法はない。それは1年間のいろんな世論、あるいは天下の情勢、世界の情勢をよく考えて、自分の胸の中で結論を出していらっしゃると私は判断をしておるわけでございます。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 他に御質疑はございませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

◎議長（辻田 実君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」「異議あり」と呼ぶ者あり）

◎議長（辻田 実君） 異議がありますので、起立により採決いたします。

（「投票」と呼ぶ者あり）

◎議長（辻田 実君） きちんと発議の要旨を言ってから行動してください。異議ありだけでしたら、異議ありに対するところのただいまから取り計らいをしたいと思っておりますけれども、どういうことなんでしょうか。

21番。

◎21番（神田守隆君） 委員会付託の省略について異議があります。そして、その委員会付託の省略を採決するに当たり、起立採決によることに異議

があります。私は採決については投票によって行うべきだということで、投票の要求をいたします。無記名投票です。無記名投票の要求は4人以上という条件がありますがけれども、今その人数について調整を図ります。暫時休憩を願いたいと思います。

◎議長（辻田 実君） それでは、今人数の確認をしたいということでございますから、その間暫時休憩をいたします。

午後0時12分 休憩

午後0時13分 再開

◎議長（辻田 実君） 休憩前に引き続き会議を再開いたします。

神田守隆さんからこの採決については無記名投票によらねたいとの要求が提出されました。本要求には会議規則第71条の規定により4人以上の要求者が必要であります。他に要求する議員はありますか。起立を願います。

（要求者起立）

◎議長（辻田 実君） 要求者4人以上であり、本要求は成立いたしました。よって、この採決については無記名投票をもって採決することに決定いたしました。

これより採決いたします。

採決は無記名投票により行います。

議場の閉鎖を命じます。

（議場閉鎖）

◎議長（辻田 実君） ただいまの出席議員数は25人であります。

投票用紙を配付いたさせます。

（投票用紙配付）

◎議長（辻田 実君） 投票用紙の配付漏れはありませんか。――配付漏れなしと認めます。

投票箱を改めさせます。

（投票箱点検）

◎議長（辻田 実君） 異状なしと認めます。

念のため申し上げます。委員会付託省略に賛成の皆様は賛成と、反対の皆様

様は反対と記載の上、点呼に応じて順次投票を願います。

なお、重ねて申し上げます。投票中、賛否を表明しない投票及び賛否の明らかでない投票は、会議規則第73条第2項の規定により反対とみなします。

点呼を命じます。

(何事か呼ぶ者あり)

◎議長(辻田 実君) 暫時休憩します。

午後0時19分 休憩

午後0時20分 再開

◎議長(辻田 実君) 休憩前に引き続き再開をいたします。

点呼を命じます。

(書記氏名点呼、投票)

◎議長(辻田 実君) 投票漏れはありませんか。— 投票漏れなしと認めます。

投票を終了いたします。

議場の閉鎖を解きます。

(議場開鎖)

◎議長(辻田 実君) 開票を行います。

会議規則第31条第2項の規定により、立会人に斉藤 実さん及び鈴木忠夫さんを指名いたします。よって、両名の立ち会いを願います。

(立会人登壇、開票)

◎議長(辻田 実君) 投票の結果を報告いたします。

投票総数25票、これは先ほどの出席議員数に符合いたしております。

そのうち、賛成15票、反対10票、以上のとおり賛成が多数であります。よって、本案については委員会の付託を省略することに決しました。

討 論

◎議長(辻田 実君) これより討論を行います。

討論ありませんか。

21番。

◎21番（神田守隆君） この発議案第5号に反対の意見を申し述べます。

今の投票の結果、提案者が16人いる中で付託に賛成したのが15人ということとありますから、提案者の中においてもこの議案について付託を省略することには同意できないという方があったわけとあります。したがって、この議案が十分な審議を経ていない、事実の前に明らかになったのではないかと思います。やはりこの問題は十分な審議を本来すべきであって、いきなりこういう形で議案を出してくるというやり方は非常に問題がある、そういうことだろうと思います。まず私が反対する大きな理由は、今回のこの議案を出すその経過、あり方、ここに極めて議会の民主主義的なルールを無視するやり方があったということとあります。

次に、市議会議員のこの減数の理由が——3名ということとありますが、この理由が野合の結果にすぎない。何らその3人という問題についての合理的な根拠の説明がされませんでした。私はそもそも議員定数の削減それ自体に反対であります。市議会議員の仕事、経費の問題から削減を主張する議論にはくみすることができない、こういう点を指摘をしてまいりました。しかし、そういう中であっても、減数ということで特別委員会の決定が出たその中で、それではさらに何人なのかという問題になりますと、この問題についての全く合理的な説明はできない。これは私どもを納得させ得るものではありません。

議会の議員は、住民の代表として住民のさまざまな要求や願いを市政にかなげる大事な役割であります。そうした視点から見ると、今回の提案者の方々には私は率直に言って——残念ながら飯田先生が代表ということで御発言がありましたが、これは提出者は法的には全く——それぞれ皆さん提出者という立場でありますから、本来答えるべきであります。自分の胸に手を当てて、議員としての活動がどうであったのか率直に考えていただきたい。私は端的に質問回数の問題だけで言うものではありません。しかし、そういう具体的な数で出てくることですから、これはそう指摘せざるを得ないわけとあります。真摯な気持ちで住民の負託に応えて議会活動を旺盛に行う、この原点に返っていただきたい。私に言わせれば、自分の怠慢を棚に上げて、議会が

役割を果たせないのは定数のせいだ、こんなお考えではないかなと思います。
これを機に議会の活性化という問題に真摯に取り組んでいただきたい。

私はこの議案についてはとても承服できるものではありませんので、反対ということで態度を表明したいと思います。

◎議長（辻田 実君） 7番鈴木さん。

◎7番（鈴木順子君） 私も同じく反対の討論をいたします。

先ほど来この発議案第5号につきましての質疑の中で、何らこちら側の、私どもの質問に対しての答弁がされていないというふうに私は思います。そして、神田議員からも今御指摘があったように、私もこの発議案第5号が本当に審議のされた中で出されたものであるならば、議会人として——最終的には決をとるわけですから、その際は私がたとえ反対でも仕方がないということもあるわけですが、本当に審議がされてない中でこのこういう結果が起きたということについては非常に残念であるというふうに思います。そして、28人から25人となっているこの根拠を明らかにされていないということ。まさに館山市議会において談合の密室政治が行われたということを御指摘申し上げ、この発議案第5号については到底容認のできるものではないということで、私の反対の討論といたします。

◎議長（辻田 実君） 他にございませんか。——討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（辻田 実君） これより採決いたします。

採決は起立により行います。

（「議長、21番」と呼ぶ者あり）

◎議長（辻田 実君） 21番神田さん。

◎21番（神田守隆君） これが最後ですから、きちんと投票によって決めましょう。無記名投票による採決を要求いたします。

◎議長（辻田 実君） 暫時休憩をいたします。

午後0時36分 休憩

午後0時38分 再開

◎議長（辻田 実君） 休憩前に引き続き会議を再開いたします。

ただいま神田守隆さんからこの採決については無記名投票によられたいの要求が提出されました。本要求には会議規則第71条の規定により4人以上の要求者が必要であります。他に要求する議員はありませんか。起立願います。

（要求者起立）

◎議長（辻田 実君） 要求者4名以上であり、本要求は成立いたしました。よって、本案については無記名投票をもって採決することに決定いたしました。

これより採決いたします。

採決は無記名投票により行います。

議場の閉鎖を命じます。

（議場閉鎖）

◎議長（辻田 実君） ただいまの出席議員数は25人であります。

投票用紙を配付いたさせます。

（投票用紙配付）

◎議長（辻田 実君） 投票用紙の配付漏れはありませんか。 — 配付漏れなしと認めます。

投票箱を改めさせます。

（投票箱点検）

◎議長（辻田 実君） 異状なしと認めます。

念のため申し上げます。本案に賛成の諸君は賛成と、反対の諸君は反対と記載の上、点呼に応じて順次投票願います。

なお、重ねて申し上げます。投票中、賛否を表明しない投票及び賛否の明らかでない投票は、会議規則第73条第2項の規定により反対とみなします。

点呼を命じます。

（書記氏名点呼、投票）

◎議長（辻田 実君） 投票漏れはありませんか。 — 投票漏れなしと認め

ます。

投票を終了いたします。

議場の閉鎖を解きます。

(議場開鎖)

◎議長(辻田 実君) 開票を行います。

会議規則第31条第2項の規定により、立会人に齊藤 実さん、鈴木忠夫さんを指名いたします。よって、両名の立ち会いを願います。

(立会人登壇、開票)

◎議長(辻田 実君) 投票の結果を報告いたします。

投票総数25票、これは先ほどの出席議員数に符合いたしております。

そのうち、賛成16票、反対9票、以上のとおり賛成が多数であります。よって、本案は原案どおり可決することに決しました。

午前の会議はこれにて休憩いたします。

午後0時50分 休憩

午後3時23分 再開

◎議長(辻田 実君) 午後の出席議員数26名、休憩前に引き続き会議を開きます。

日程の追加

◎議長(辻田 実君) お諮りいたします。

安房郡市広域市町村圏事務組合議会議員川名正二さん、千葉県競輪組合議会議員のうち榎本春光さん、館山市、富浦町及び三芳村学校給食組合議会議員のうち辻田 実、それぞれ本日都合により辞任されました。よって、それぞれ組合規約の定めるところにより、これが補欠選挙を本日の日程に追加し、直ちに選挙を行いたいと思います。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎議長(辻田 実君) 御異議なしと認めます。よって、それぞれ組合議会議員の補欠選挙を日程に追加し、選挙を行うことに決しました。

安房郡市広域市町村圏事務組合議会議員の補欠選挙

◎議長（辻田 実君） 安房郡市広域市町村圏事務組合議会議員の補欠選挙を行います。

補欠議員の数は1名であります。

お諮りいたします。選挙の方法は、地方自治法第118条第2項の規定により、指名推選によりたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（辻田 実君） 御異議なしと認めます。よって、選挙の方法は指名推選によることに決しました。

重ねてお諮りいたします。指名の方法は、議長において指名することにしたと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（辻田 実君） 御異議なしと認めます。よって、議長において指名することに決しました。

これより指名いたします。

安房郡市広域市町村圏事務組合議会議員に福原 勤さんを指名いたします。

お諮りいたします。ただいま議長において指名いたしました福原 勤さんを安房郡市広域市町村圏事務組合議会議員の当選人と定めますことに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（辻田 実君） 御異議なしと認めます。よって、ただいま指名のとおり、福原 勤さんが安房郡市広域市町村圏事務組合議会議員に当選されました。

ただいま当選されました福原 勤さんが議場におられますので、本席より会議規則第32条第2項の規定による告知をいたします。

千葉県競輪組合議会議員の補欠選挙

◎議長（辻田 実君） 千葉県競輪組合議会議員の補欠選挙を行います。

補欠議員の数は1名であります。

お諮りいたします。選挙の方法は、地方自治法第 118条第 2 項の規定により、指名推選によりたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（辻田 実君） 御異議なしと認めます。よって、選挙の方法は指名推選によることに決しました。

重ねてお諮りいたします。指名の方法は、議長において指名することにいたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（辻田 実君） 御異議なしと認めます。よって、議長において指名することに決しました。

これより指名いたします。

千葉県競輪組合議会議員に川名正二さんを指名いたします。

お諮りいたします。ただいま議長において指名いたしました川名正二さんを千葉県競輪組合議会議員の当選人と定めますことに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（辻田 実君） 御異議なしと認めます。よって、ただいま指名のとおり、川名正二さんが千葉県競輪組合議会議員に当選されました。

ただいま当選されました川名正二さんが議場におられますので、本席より会議規則第32条第 2 項の規定による告知をいたします。

館山市、富浦町及び三芳村学校給食組合議会議員の補欠選挙

◎議長（辻田 実君） 館山市、富浦町及び三芳村学校給食組合議会議員の補欠選挙を行います。

補欠議員の数は 1 名であります。

お諮りいたします。選挙の方法は、地方自治法第 118条第 2 項の規定により、指名推選によりたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（辻田 実君） 御異議なしと認めます。よって、選挙の方法は指名推選によることに決しました。

重ねてお諮りいたします。指名の方法は、議長において指名することにしたと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（辻田 実君） 御異議なしと認めます。よって、議長において指名することに決しました。

これより指名いたします。

館山市、富浦町及び三芳村学校給食組合議会議員に榎本春光さんを指名いたします。

お諮りいたします。ただいま議長において指名いたしました榎本春光さんを館山市、富浦町及び三芳村学校給食組合議会議員の当選人と定めますことに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（辻田 実君） 御異議なしと認めます。よって、ただいま指名のとおり、榎本春光さんが館山市、富浦町及び三芳村学校給食組合議会議員に当選されました。

ただいま当選されました榎本春光さんが議場におられますので、本席より会議規則第32条第2項の規定による告知をいたします。

常任委員会委員及び議会運営委員会委員の選任

◎議長（辻田 実君） 日程第5、任期満了による常任委員会委員及び議会運営委員会委員の選任を行います。

常任委員会委員及び議会運営委員会委員の選任につきましては、委員会条例第8条第1項の規定により、議長が会議に諮って指名することになっております。

これより各常任委員会委員及び議会運営委員会委員の氏名を職員に朗読させます。

◎書記（鈴木 哲君） 朗読いたします。

総務委員会委員 斉藤 実さん、脇田安保さん、小宮利夫さん、山中金治郎さん、鈴木忠夫さん、日下君敏さん、神田守隆さ

ん、辻田 実さん。

文教民生委員会委員 島田 保さん、宮沢治海さん、植木 馨さん、鈴木順子さん、岩村勝弘さん、榎本春光さん、鈴木勝美さん、横溝 功さん、飯田義男さん。

建設経済委員会委員 秋山光章さん、増田基彦さん、永井龍平さん、庄司二三男さん、山崎雅己さん、川名正二さん、生稲 陞さん、福原 勤さん、石井昌治さん。

議会運営委員会委員 秋山光章さん、島田 保さん、鈴木順子さん、永井龍平さん、山崎雅己さん、鈴木勝美さん、鈴木忠夫さん、神田守隆さん、飯田義男さん。

以上です。

◎議長（辻田 実君） お諮りいたします。

ただいま朗読のとおり各委員会委員に指名いたします。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（辻田 実君） 御異議なしと認めます。よって、ただいま指名のとおり各委員会委員に選任することに決しました。

ただいま選任されました各委員会委員は、本会議終了後、それぞれの正副委員長の互選を行いますので、御了承願います。

常任委員会所管事務の閉会中継続調査について

◎議長（辻田 実君） 日程第6、常任委員会所管事務の閉会中継続調査についてお諮りいたします。

各常任委員会において、お手元に配付の所管事務の閉会中継続調査申出事件一覧表のとおり、平成7年4月30日まで閉会中も継続して調査したいとの申し出がありました。各委員会から申し出のとおり閉会中の継続調査とすることに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（辻田 実君） 御異議なしと認めます。よって、各委員会から申し

出のとおり閉会中の継続調査とすることに決しました。

閉 会 午後 3 時 3 4 分

◎議長（辻田 実君） 以上で本定例会に付議されました案件は議了いたしました。

よって、これにて第 2 回市議会定例会を閉会いたします。

◎本日の会議に付した事件

1 議案第 2 8 号乃至議案第 3 0 号

1 継続審査について（請願第 1 8 号、請願第 1 9 号）

1 議員定数調査に関する件

1 日程の追加・発議案第 5 号

1 日程の追加・安房郡市広域市町村圏事務組合議会議員の補欠選挙

1 日程の追加・千葉県競輪組合議会議員の補欠選挙

1 日程の追加・館山市、富浦町及び三芳村学校給食組合議会議員の補欠選挙

1 常任委員会委員及び議会運営委員会委員の選任

1 常任委員会所管事務の閉会中継続調査について

地方自治法第 1 2 3 条第 2 項の規定により署名する。

館山市議会議長

館山市議会議員

館山市議会議員